

## YouTube「TBS CROSS DIG with Bloomberg」 経済と金融の知識を得られるコンテンツで 20代から40代の“杖”になりたい

特任執行役員  
TBS CROSS DIG with  
Bloomberg  
チーフコンテンツオフィサー  
竹下隆一郎さん



### 専属で業務にあたり 本気でコンテンツ作りを

——どうしてTBSがブルームバーグと提携してこのニュースサービスを立ちあげたのでしょうか。

竹下■これからは経済と金融の時代です。そこに強みがある世界有数のマルチプラットフォームのメディア企業と組むことに大きな魅力を感じたからです。コンテンツはニュースという発想の枠を良い意味で拡大して、経済と金融の知識を得られる学習コンテンツであるとも考えています。ブルームバーグの映像ドキュメンタリーを配信したり、海外の方にインタビューしたりしてTBSのグローバル化も進めています。

——スタートから1年ほどで700本以上の動画が作られています。体制はどうなっているのでしょうか。

竹下■映像制作者や営業など全部で数十人のスタッフで運営しています。TBSの番組と兼務ではなく、こちらの専属で業務にあたるスタッフも多い。知恵を絞って、本気でコンテンツ作りに臨んでいます。

——YouTubeを動画配信のプラットフォームとして選んだ理由は？

竹下■YouTubeの政治的、経済的な影響力が世界で高まっているからです。私は「ハフポスト日本版」というメディアにつとめていましたが、当時からYouTubeが完成されたプラットフォームだと感じていました。データもメディアに公開してもらえるのが大きな魅力です。

——これらの動画を特にどんな方に見てもらいたいですか。

竹下■20代から40代のビジネスバ

ーソンにぜひ見ていただき、このメディアのコミュニティに参加してほしいと思っています。新NISAが本格化し、地政学や安全保障も経済を軸に考える必要があります。経済や金融の視点を持たないと世界の今後を読み解けない。投資をどうしたいか、自分のキャリアをどうしたいか、どう生きていきたいか、さらに日々の食事やお酒をどう楽しみ、自立した経済市民として生きられるのか。そういった方たちの“杖”になりたいという思いがあります。

### YouTubeとテレビが連携した 新しい時代になっている

——独自のコンテンツを作っていくなかで、地上波のテレビとの関係はどうなっているのでしょうか。

竹下■これからも連携を深めたい。例えば自分たちが取材した内容が「Nスタ」などで放送されることもあります。CROSS DIGで評判だったゲストが「news23」や「Nスタ」「サンデーモーニング」に出ていく流れも生まれるはず。デジタル時代の「ゲストの発掘機能」も備えて、地上波のお役に立ちたいですね。YouTubeは世界的な影響力が高まっているので、来日した海外の経済人が「まずはCROSS DIGに連絡をする」という流れも生まれつつある。

記者クラブでは入手できない情報なども入ってくるので、それを積極的にTBSグループ全体で生かしたいですね。デジタルと地上波を対立で考えることはまったくなく、お互いが繋がっているようなイメージですね。そういう新しい時代に突入しているのだと思います。

### 初期のテレビの混沌とした力が 今のYouTubeに感じられる

——技術的にも新しいことを試みているようですね。

竹下■例えば、カメラが移動するとちゃんと立体的に背景が動く「パーティクルな背景」や、まるで空中で、出演者が文字を書いているかのような「エアリアルライティング」といった技術も試しています。YouTubeというプラットフォームがあるからどんどん試していけるのです。

初期のテレビはみんながいろんなおもちゃを箱にごっちゃ混ぜにして、そこからいいものを番組化したり、新しいものを発明したりしていたと思います。それは今のYouTubeに近いように思います。

### オススメコンテンツ



#### 【人類に残る選択肢は2つ】台湾のオードリー・タンが語る次世代AI

台湾初代デジタル担当大臣、オードリー・タン氏が登場。「デジタル民主主義」をテーマに、AI・テクノロジーがもたらす民主主義の未来を語ります。社会の分断を乗り越える概念「ブルラリティ（多元性）」も解説。SNSの本来機能、ディープフェイク対応策、合意形成の理想の形、そしてデジタル時代における「生き方」のヒントを提案します。



from  
YouTube

テレビ局として、独自の動画配信にフォーカスしたニュース事業を立ち上げられたのは、ユーザーニーズの変化に即した素晴らしい取り組みです。YouTubeでさまざまな実験や開拓を行い、シナジーとして地上波報道番組に還元される流れが、今後業界に広まることに期待しています。